

お大師さまの言葉

高野山大学は創立132年。
132の学びを見つけよう！

高野山の 大学、め 大す

009

2018

剣の柄に手をかけ、夜光に向かって身構える。

『梵字悉曇字母并釈義』

案 剣 夜 光

「剣を夜光に案ず。」漢字四字だけでは、何を言いたいのかサッパリ分かりません。「矛盾」や「五十歩百歩」などの故事と同じで、実は、裏に隠れている中国の話があります。「夜光」とは有名な宝石の名前。「闇夜を歩いている時に光る玉を投げつけられたら、誰でも剣を抜こうとする。なぜなら、わけの分からない物が、突然目の前に現れたからだ。」宝石と気付けば大切にするはずなのに、気付かないから雑に扱う。宝石自体は何も変わっていません。違っているのは、対応している人の反応です。「あなたは、目の前のものの本質に気付いていますか？」弘法大師が言いたかったのは、そういうことです。価値に気付けば見方や態度が変わる。相手に変化を求めるのではなく、自分が相手の良さに気付く。そして、自分で自分の良さに気付く。みんながって、みんないい。弘法大師はこの話が気に入っていたらしく、同じことを「魚珠照夜」とも表現しています。

南 昌宏
(みなみまさひろ)
密教学科教授



専門: 中国哲学
担当科目: 漢文Ⅰ・Ⅱ、漢文学概論、
中国文化特殊講義、密教学演習

お大師さま

弘法大師(空海)は広く人々の信仰をあつめ、敬慕の念と親しみを込めて「お大師さん」「お大師さま」と尊称されています。

大学選びに役立つ

受験生のための情報誌

卒業生のいま

空海研究・書道史上、重要な発見



信仰の道へ

19歳のとき眼の大病を患った。文字通り目の前が真っ暗になり、それがきっかけで大師を信仰し始める。

大柴さんは空海研究史上、貴重な発見を続けている。まず、空海が留学先の唐から持ち帰った『古今文字譜』の書写本を、国立国語研究所・四天王寺大学など国内4研究機関で初めて確認した。それまで日本国内では、空海ゆかりの史料とは全く認識されておらず、空海が大きく影響した日本語の発達史上においても重要な発見だった。

そして、「空白の7年間（空海が出家し入唐するまでの期間）」と言われる命題への取り組み。様々な学説が発表される中、昨年「得度・受戒説」を発表するなど、次々に明らかになる重要な史実を発表した。現在は高野山大学総合学術機構密教文化研究所の専任研究員として、大学院通信教育課程、文学部密教学科の非常勤講師を勤めながら、ひたすら大師研究に没頭する。

大学卒業後、高野山専修学院で修行。大師、密教の真理を学ぶため、高野山大学大学院修士課程に進学。大師とその密教を後世に伝えるための平安・唐代の歴史学、文学、文字学、書誌文献学などの総合的な研究に取り組み始める。同期院生もよく勉強する良い学風に浸かり、研究生活に没頭できた。

「現実として、どの大学に進むかが、就職やその後の人生の人間関係に大きく影響を及ぼします。もし、高野山大学を選ぶ理由が**本気で密教を学ぶため**ならば、今から漢文とサンスクリット語を勉強し始めてください。」と大柴さんは言う。

中国留学

修士修了後さらに、原書を読み解く漢文力を身につけるため中国に渡り、中国中山大学で7年間研究に取り組んだ。そこで自らこつこつと校訂を開始したのが、30巻

からなる『篆隸萬象名義』。空海が唐本『説文解字』と原本系『玉篇』を合体させた、現存するいわば**日本最古の漢字辞書**で、全巻を初めて活字化させた。「校訂本を完成するには、恐らく一生を費やすでしょうね」と、大柴さんは苦笑する。日本の国語史上、大変重要で意義のある研究だ。そのほかまだまだ取り組みたい研究課題や活動は山のようにある。大師の密教を復活するために残りの人生を研究に捧げること、これが大柴さんの生き様である。

高野山大学とは

「高野山大学は、大師が日本に定着させるため生涯を捧げた密教を、学び実践する場所です。**即身成仏**の教えに触れ、その実現こそが人生最大の目的であること。さとりの中にこそ、安心、豊かさ、幸福など、全てが満たされてあることに気づくこと。それが、ここに来る本当の意味です。そして、それを後世に伝える。それだけが大学の役割です。」

「**真言密教**」は、即身成仏とは何かを説き、その**修行方法を具体的に**

に有する仏教の二宗派。それを後世に伝える「真言僧侶」とは、釈尊が説いた、「人を苦しみ、不幸にさせる原因」を知り、即身成仏へ人々を導く者。

「今年から『即身成仏義』を教えることができるのが楽しみ」と大柴さんは言う。

真言行者として生きる

「仕事」が楽しいと感じるときは、大師、明神、密教のさとりなど、真実に触れた時。

「人間にとって、もっとも大切なことは**真心**です。人として誠実に生きる。毎日の行いが報いとなって来世に現れることを自覚し、日々の行いを慎むこと。自分のために行動する人は、今生にとらわれ、来世の報いを恐れず自分のために他人を利用したり陥れたりする人であり、全ての人の心の根底に初めから備わっている、仏様のさとりと境涯、**菩提心を発心**することとはできません。」

一生をかけ、大師と密教に命をかけて向き合い、己れの生き様を貫く真の真言僧侶が、大柴清圓さんだ。

おおしばしやうえん 大柴清圓

高野山在住(東京都出身)

H12 高野山大学文学研究科 修士課程密教学専攻修了
H17 中国国立中山大学中国語文系 古文学専攻博士課程 文学博士
現 高野山大学総合学術機構 密教文化研究所 専任研究員



【主な論文・著作】

- 『篆隸萬象名義』文字研究(博士学位論文)、2006
- 『古今文字譜』の研究「高野山大学密教文化研究所紀要」27
- 「再論『三教指帰』真作説」
- 「高野山大学密教文化研究所紀要」29
- 「大名草彦命高野明神説」高野山大学密教文化研究所紀要」30
- 「興福寺南円堂銅燈臺銘」の弘法大師御作説」密教学研究」49
- 「菩提心論」の冒頭一段落の序文説」
- 「高野山大学大学院紀要」16
- 「教日撰『授菩提心戒儀式』と『弁密顕二教論』
- 「印度学仏教学研究」168(1)
- 「梵字悉曇字母并釈義」と『悉曇釋』引用説」
- 「高野山大学密教文化研究所紀要」31
- 「弘法大師の二十五歳得度・三十歳受戒説」空海研究」5(予定)
- 「天空の曼荼羅道場 高野山」高野山出版社(予定)

しずかじえん 静慈圓師

高野山真言宗第百十九寺務検行執行法印
高野山清涼院住職、高野山伝燈大阿闍梨、
高野山大学名誉教授



後七日御修法供僧・定額位(東寺)にて
静慈圓師と大柴清圓氏

「大柴君の研究は空海研究史上、大変重要であり、それは彼の漢文力、徹底的な調査・洞察力、根気強さ、そして何より大師への強い信仰が根本にあるからです。現在中国を代表とする漢字文化圏の宗派から、高野山は多大な注目を浴びており、唐代密教復興・伝承へ意欲を燃やす中国人僧侶は増え続けているのが事実。原典から忠実に史実に切り取り、文献として編纂を続ける彼は、そうした僧侶に直接、法を伝授する実力さえ備えています。こうした若き実力者が、高野山大学の教学を担っていてくれることを多くに期待しています。」

高野山大学の宝者 —密教学科編—

実家のお寺を継ぐため、高校卒業後すぐに高野山専修学院に入學しました。僧侶資格は取得しましたが、住職の父がまだ若く現役のため、復習と鍛錬の意味も兼ねて高野山大学の進學しました。高野山大学は、僧侶になりたい人からすると、**現役バリバリの僧侶**から講義を受けることができるので、とてもいい大学だと思います。僧侶以外の一般の人の場合でも、普通の大学では学べないことが沢山あるのが他の大学にはない利点です。高野山大学では、在學中に僧侶になる為の儀式などを行って、僧階を得られることも魅力です。

最近では學生数が少ないですが、逆にそれがよくて、講義や先生から親密に多くのことを学べると思います。もともとそれほど社交的ではなく、集団にいることやコミュニケーションが得意な方ではなかったのですが、高野山にきて、アルバイト先のお寺で参拝の方々の接待などを経験したおかげで、以前よりだいぶましになったと思っています。

挑戦したいことは、**四国八十八ヶ所歩き遍路***と西国三十三ヶ所巡りです。最近楽しいことは、その練習として町石道を歩い



密教学科4回生
う え の み つ お
上野統生さん
徳島県出身

「挑戦したいことは四国八十八ヶ所と西国三十三ヶ所巡り。生涯をかけて究めたいものは、**“僧侶”**です。」

たりしていることです。お大師様や、昔参拝して来た人たちと同じ道を歩いていると思うと、いろいろと考えさせられます。

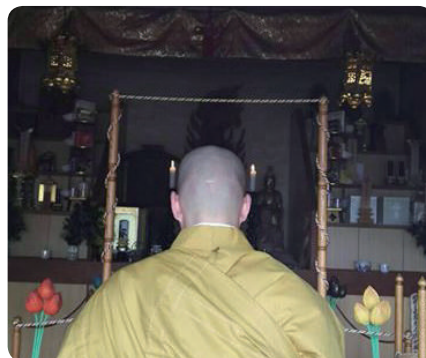
また、将来訪れてみたい国々もたくさんあります。アメリカ、タイ、キューバなどです。アメリカは日本と一番親交が深く、いろいろな人種を受け入れている国だからです。タイは上座仏教の国で、僧侶の原点等を学べそう。キューバは、社会主義国で、TVで見る限り、食料は配給制で、教育は無料、医療も無料の国と聞きました。しかし、ネットでよく調べたら、社会主義の理想を実現できていない部分もあります。そんなことも含め、自分の足を運び、現実の世界をもっと経験してきたいです。

将来のこと。父は勉強熱心で尊敬できる僧侶です。母は寺の手伝いをしながらも、家事をととても頑張っている素敵な人です。**二人の間に生まれて、本当によかった**と思っています。僕も、家族全員が幸せだと思える家庭を築きたいです。それに、うちのように(3人兄妹)、子供をたくさん作り、子が子を育てるような家庭に憧れます。そして勿論、生涯かけて究めたいものは、僧侶です。

※上野さんは3月末に四国八十八ヶ所遍路を満願しました。

今、世の中に必要なのは どんな僧侶だと思いますか

檀信徒の方々からどんな質問をされても、的確に答えることが出来る僧侶だと思います。



高野山で訪れるべき場所は？

大門、大伽藍、奥之院です。
霊宝館、数珠屋四郎兵衛、胡麻豆腐「角濱」、和菓子「かさ國」、高野山内の居酒屋…、高野山大学もぜひ！

印象に残っていたり、 影響された本や映画は？

『ブッダ(手塚治)』、『GTO』、『キングダム』、『進撃の巨人』、『こち亀』、『ゴルゴ13』。映画は、『悪の経典』、『もののけ姫』、『アメリカンサナイパー』。

講義以外の時間の活動は？

お寺でアルバイトをしています。仕事の内容は、朝のお客さんの布団上げ、朝食出し、部屋の掃除と準備、夕食出し等。一回生の時は寺に住み込みで、講義がなければお寺の仕事をしていました。

もしお金も時間も生活も自由に してよい1年間を与えられたら、 どんなことをしてみたいですか

そんな1年間、いりません！

将来あなたが目指す、 理想の僧侶の姿とは？

勉強熱心でよく働く僧侶です。

現在最も力を入れている 科目は？

どの科目にも力をいれています！

尊敬している人は？

お大師様、ガンジー、マザー・テレサ、ホセ・ムヒカ(元ウルグアイ大統領)、両親。



高野山の宝者 —人間学科編—

「高野山」という場所があるのは知っていたけど、どういう場所かも、地元和歌山にある事も知りませんでした。オープンキャンパスで初めて来て、空気が澄んでいる!と思いました。山内の建物がとてもきれいです。大学の職員のみなさんが親切に丁寧に対応してくださり、さまざまなお話を聞けて面白かったです。

哲学・心理学どちらも学びたいと思い大学を捜していたとき、和歌山にそれら両方と、密教を学ぶ大学があると知って、密教の考えを取り入れた授業を受けてみたいとオープンキャンパスで初めて高野山に came ました。

実際、高野山で生活を始めて好きになったのは、高野山の「**空気感**」。大学では、これまで男子とあまり関わらない学生生活を送ってきたので、女子が少ない事で男子と話す機会が増え、新しい視点の違う考えを知ることができ、新鮮でとても



人間学科2年生
鈴木理恵さん
和歌山県出身

目標は、「両親や親戚が胸を張って私の話を出来る人」になることです。

面白く、毎日が楽しいです。僧侶を目指す同級生たちの密教に対する熱意や知識量にも驚きました。一方で、あらゆることにおいて「密教がすべて」というひとばかりでないのも、新鮮でした。大学の魅力は、なんといっても先生方や職員の皆さんとの接点の多さです。

高野山に来て、自分が変わったと思うことは沢山あります。まず様々な人と話せるようになり、苦手だった「**自分の意見を言う**」ことができるようになりました。

一人暮らしを始めたことで、一人で静かに考えることができる時間が増え、高校のときまでのように長時間ひたすら悩み続ける、ということが減りました。一言でいえば、「高野山」というのは、**これまでの考え方が変わるところ、だ**と思います。目標は、「**両親や親戚が胸を張って私の話を出来る人**」になることです。



一番充実していると思う時間は？

洗濯、洗い物など家事をしているとき。

これまで一番印象に残ったり、影響を与えた本は？

『削除ボーイズ0326(方波見 大志著)』、『人間失格(太宰治)』。

もしお金も時間も生活も自由にしていれば1年間を与えられたら？

これまで関わってきたお世話になった人や、仲の良い人と、様々な話をしながら色々なところを旅行したいです。

尊敬する人は？

祖母。

好きな講義、苦手な講義は？

「キャリアカウンセリング」です。就職や将来の事など、漠然としていて何を考えたら良いのか分からなかったことが、この授業によって少し考えられるようになったから。苦手なのは「英語」。高校時代から苦手で、今でもよくわからないからです。。

旅行で訪れてみたい場所は？

北海道。沖縄には修学旅行で行ったので、次は北に行きたいです。

困っていること、不満は？

女子寮に帰る道のりが寂しいこと…コンビニが遠い……。

好きな時間は？

電車や自転車などに乗って考え事をする

高野山で訪れるべき場所、特別な場所は？

ビルマ塔と、その地下室。



将来の目標は？

両親や親戚が胸を張って私の話を出来るような人になること。

「高野山」とは、あなたにとってどんなところ？

考え方が変わるところ。



こんなことが



べます

密 教 学 科

「日本語」

大学では多くの専門的な本を読み、それをもとにレポートを書き、最終的に卒業論文に取り組みます。そのためには専門的知識を身につけるとともに、論理的に構成された文章を正確に把握し、かつ自分で書けるようになることが不可欠です。目標は自分自身の考えを的確に表現し、論理的に展開できるようになること。また、他人の意見を的確に把握できるようになること。いわば、卒業論文作成に向けてのトレーニングですが、それだけでは面白くありません。**せっかく高野山大学なの**

だから、使用するテキストや資料は、日本が誇る真言密教の書物やお大師様の著作類……だけではなく高野山全体だって資料として活用しちゃいます!高野山にあるさまざまな文献や資料の時代背景の解説もあわせ、他の講義にも応用できる授業です。高野山大学で開かれているどんな難しそうなタイトルの講義でも、新入生で「日本語」を学んでいれば大丈夫!思ったことを、快適に表現し、誰とでもスムーズな意思疎通をし、人を納得させる文章を書けるように、楽しくトレーニングします。

土居夏樹

密 教 学 科 准 教 授 (どい な つ き)

講義名：「日本語」

－ 調べ、考え、まとめて発表する －

卒業論文を作成するスキルは、大学で学問すること、すなわち「研究すること」の能力を身につけることにほかなりません。この授業では、与えられたテーマや自分で見つけ出したテーマについて、資料やデータを用いつつ、自分の言葉で自分の意見を論理的に論じる能力を身につけることを目指します。レポート・小論文を書くだけでなく、実際のグループ発表を通して、「表現・説得能力」も鍛えます。

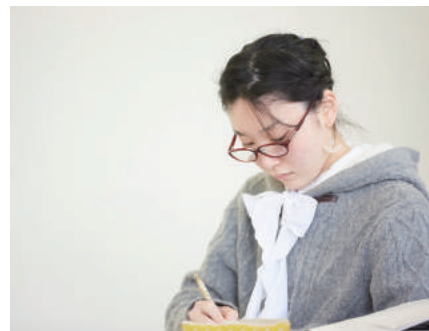
ワタシが教えています



『日本語の講義といっても、仏教や密教のことを楽しく学べます。1年生にとっては興味を引き出してくれる良い講義だと思います。』
『学生にとって、先生は兄のように親しみを持てる人柄だと思います。』
『自己紹介から始まり「高野山」の要約、発表で終わりましたが、終始わかりやすい雰囲気で居心地がよかったです。』
『授業中に必ず1回は笑いを取らないと気が済まないのかな…』と思ってしまっほど楽しい先生です(笑)でも、質問したことにはきちんと答えてくださいますし、専門分野の話になると「やはり大学の先生だなあ…」と感じます。』

『般若心経の現代語訳や自分なりの要約文など文章で自分自身を表現することが多い講義だと思います。自分の言葉で表現する力が身につきます。』
『生徒ひとりひとりを見て講義をしてくださる先生だと思います。頻繁に私たちが好きな分野の話をつてくれるので、ついつい引き込まれてしまいます。』
『高野山1年目の私でも分かりやすく高野山や密教について学ぶことが出来ました。レポートの書き方も教えて頂いて、大変助かりました。』
『他の講義も先生から受けた!!と思うくらい、講義全体が楽しかったです。』
『この講義は自主性重視。自分で調べたり、考えたりすることが多く、予想以上に色々な分野に渡って学ぶことができました。』
『先生は順を追って丁寧に教えてくださるので、講義についていく事ができました。豆知識やユーモアを加えて、講義自体の雰囲気がとても明るいのでいつもとても楽しみでした。』
『講義に対する熱意がすごく、説明も丁寧にしてくれます。話がとても面白く講義を盛り上げてくれるので、仏教や密教のことがすーっと頭に入ってくる印象です。』
『レポートや論文の書き方を、実際の文献を読んで実践するのでとてもためになります。』

学 生 の 声



こんなことが学べます

人間学科

「古文書入門」

皆さんは、「古文書」という言葉を知っていますか。「こぶんしょ」って読むの？ いやいや、これは「**こもんじょ**」と読みます。大河ドラマや時代劇がお好きな方は、戦国武将が和紙を手に持ち毛筆で手紙を書くシーン、あるいは武士が百姓に対してお触れを下すシーンを見たことがあると思います。つまり、古文書とは、江戸時代以前に作成された文書のことを言います。

古文書は、日本の歴史や文化を学ぶ上でも貴重な素材であり、朝廷や幕府が出した命令書、プライベ-

ートな手紙、あるいは役所で作られた帳簿など、多くの種類があります。ただし、古文書は、草書体というくねくねした字体で書かれたものが多く、これを正確に解読するのは一筋縄ではいきません。そこで、この講義では、古文書の写真を教材として、解読能力を高めていきます。また、中世や近世の手紙のマナー(書札礼)や、現代の閣僚も使用している「**花押**」と呼ばれるサインなどについても学んでいきます。

坂口太郎

人間学科 助教 (さかぐちたろう)

講義名：総合科目(古文書入門)

— 古文書を通して学ぶ日本の歴史と文化 —

日本の歴史と文化を学ぶ上では、貴族・武士の家、あるいは寺院や神社に伝わった古文書を読解することが欠かせません。この講義では、草書体と呼ばれるくねくねした字体の解読能力を高めつつ、江戸時代以前の手紙をしたためる作法や、現代の閣僚も使用している「花押」と呼ばれるサインについても学んでいきます。そして、古文書を通して、日本の歴史と文化を深く理解することを目指します。

ワタシが教えています

学生の声



『古文書が読めるようになりたくて受講しました。入門とありますが、かなりレベルの高い講義です。しかし本来、一次史料を読み、歴史上の出来事や先人の思考に触れるべきなので、入門レベルでもレベルが高いのは当然かもしれません。』

『講義を重ねるごとに、順次レベルの高いものに取り組むような仕組みで、先生がよく考えられていることが段々分かってきました。』

『この分野では著名で、大変知識豊かな先生です。難しい話が始めたなあ・・・と自分が知らない史実から話されても、話に筋道が通っていて、いつのまにか先生の話す歴史の世界にすっぽり入っていることに気づきます。』

『とにかく知識量がすごく、どんな質問をしても誰にでもわかりやすく上手に説明してくださるので、とても楽しいです。』

『ユーモアがすごいです(ブラックユーモアも・・・)、時々聞いているハラハラすることもあり楽しいです。』

『とっても研究熱心な先生で、私たちがどんな質問をしても、「ほう!」という感じで喜んで答えに導いてくれます。質問のしがいがある楽しいです。』

『先生にも知らないことって、あるんですか?』

『先生の風貌や、毒舌(少々)がなかったら、きっとこのとてつもなく難しい講義命題をこんなに抵抗なく学べないと思います。』

